国立大学イノベーション創出環境強化事業　令和３年度採択校
採択から３年目のフォローアップに関する所見

国立大学法人　お茶の水女子大学

（審査・評価委員の所見）

- 当初計画通り、民間資金獲得を目指すべく、ジェンダード・イノベーション研究所、SDGs 推進研究所等の新設を進めている。
- 学内資産の有効活用も進めているとともに、産学連携強化による民間資金獲得予定額は、既に令和５年度の目標額を上回っているとのことであり、着実な成果が見られる。
- ジェンダード・イノベーション研究所はユニークな研究所であり、また、我が国全体で解決すべき課題を対象としているため、引き続き活発な活動を期待すると共に、ジェンダード・イノベーションがお茶の水女子大学で実施される意義をより明確化し、今後の大学構想としてどのように具体的に発展していけるのか注目したい。

国立大学イノベーション創出環境強化事業　令和３年度採択校
採択から３年目のフォローアップに関する所見

国立大学法人　浜松医科大学

（審査・評価委員の所見）

- 当初計画に及ばなかったものの、民間資金は増加している。当初計画通り、民間資金獲得を目指すべく医工連携強化、共同利用促進のための研究施設の拡張などを進め、より産学連携の規模と民間資金獲得実績を拡大してほしい。
- 産学連携実施法人設置に向けた取組や、学部学生向けのアントレプレナーシップ教育、静岡大学との医工情報連携の推進など、即時の効果だけでなく中長期を見据えた計画・取組みが展開されており、今後の進展に期待したい。
- 医学と工学の融合を推進するような総合知のフレームワークを考えるとともに、浜松という地域はもちろん、地理的にも中京経済圏との連携を模索することもありうるのではないか。
- 治験におけるリモートモニタリング環境の構築や医療情報はきわめて秘匿性の高いものであるが、細心の注意を払いつつ、電子的シェアリング環境を構築しつつある。今後の進展に大いに期待したい。

国立大学イノベーション創出環境強化事業　令和３年度採択校
採択から３年目のフォローアップに関する所見

国立大学法人　東海国立大学機構
名古屋大学

（審査・評価委員の所見）

- 民間資金獲得額は、寄附金収入の大幅減を受けて令和 2 年度→令和 4 年度でマイナスのままであるが、産学連携共同研究収入は、令和 2 年度→令和 3 年度の前年比マイナスが令和 4 年度でプラスへと回復した。コロナ禍からの回復とともに、様々な施策の成果が現れている。間接経費割合の 44.5%は他大学のベンチマークとなり得る素晴らしい数字であり、特筆すべき成果である。
- 本事業で整備した産学連携スペースの利用拡大や名古屋大発ベンチャーとの大型共同研究が期待される状況とのことであり、令和 5 年度に掲げている目標は高いが、達成を期待したい。
- 東海国立大学機構と名古屋大学とのガバナンスの関係や機能を明確にし、名古屋大学が大学院を中心に、いくつもの大学群をリードする研究大学として突出した成果を創出することに期待したい。

国立大学イノベーション創出環境強化事業　令和３年度採択校
採択から３年目のフォローアップに関する所見

国立大学法人　北海道大学

（審査・評価委員の所見）

- 民間資金の獲得に関しては、産学連携共同研究収入、寄附金収入、知財収入等、すべての面で増収となっている。バランスの取れた地道な活動が成果をあげていると理解するが、北海道大学のポテンシャルからすれば、産学連携共同研究収入のさらなる伸びが可能と考える。異分野融合、海外展開、そして貴学への期待が大きい地域創生を目指した取組みをさらに強化し、今後の発展を期待したい。
- 地域の中核大学として地場企業や自治体との連携を進めているほか、道内の多様なステークホルダーを集める「北海道創発会議」を開催し、北海道の社会課題から新しい価値を創造するための意見交換の場を創出するなど、その役割を果たしていると評価できる。その一方で、北海道大学東京オフィスに産学連携スペースを増床するなど、多くの民間企業の本社機能が集中する首都圏の需要を適切に把握し取り込むことにも注力しており、大学としてバランスのとれた取組みである。
- 間接経費の増加がやや遅れているが、海外共同研究を含めて今後の改善に期待したい。
- グローバルに見ても地理的特異性とポテンシャルを持つ北海道という地域を先導する知の拠点としての大学像を確立されることを期待したい。